

第2回「(仮称)調布市文化芸術推進ビジョン」策定検討委員会 議事要旨

- 1 日時 令和6年10月30日(水)午後4時から
- 2 場所 調布市役所5階市長公室
- 3 出席者
 - (1) 委員 10人
 - (2) 事務局 文化生涯学習課 6人
 - (3) 事務局 株式会社 文化科学研究所 3人

次第1 開会

次第2 「(仮称)調布市文化芸術推進ビジョン」骨子について

- ・事務局より資料の説明

○A委員

1ページの背景と趣旨というところが、法に基づいてこの計画を作りますと読めてしまうので、国では本質的価値、社会的・経済的価値を文化芸術の価値として考え、それを活用していくということが基本的な考えとしてありますので、それを語った方が良かったと思います。法があるからだけではなく、市として必要があるから、活用していった方がいいということがまず大事だと思います。必要性から考えていくと施策の理解ができると思いました。

○委員長

調布市として何が必要なのかを明確にしてほしいという意味においては、すごく重要な指摘が出てきたと思います。

○B委員

調布市の計画にたどりつくまでの前段が長いと思ったので、調布市としてはこうしたいというのを先に見せた方がいいと思いました。

23ページ、施策1は、文化芸術を通した共生社会の充実という施策が、こちらから与える形に思え、「地域共生社会の充実」という言葉が強く感じる。もう少し市民とともに進める言葉に変えられたらいいと思いました。

施策5については、発信することが大事だと思ったが、障害者や外国人へどのように発信していくの
がいいかが気になった。

○C委員

文章化して市民の人たちにも見てもらうというのを考えたときに、漢字が多く、押し付けられてる感を感じた。文化芸術は楽しくあってほしいのですが、あまり楽しさを感じない。アートの業界にいる中では、楽しく興味をもってもらえるキャッチフレーズなどを日頃考えているので、敷居が高く感じてしまうワードが多く、文化芸術というのを感じないと思いました。

○委員長

行政用語が満載なので、本当にその通りだと思います。

○D委員

施策の5の言葉に、「文化芸術の効果的な魅力の発信」とありますが、効果的な文化芸術の魅力の発信か、文化芸術の魅力の効果的な発信とするのがよいのではないのでしょうか。効果的などという言葉は、多分、発信にかかっていると思うので、後で確認いただければと思います。

施策1ですが、たくさんの事業が連ねられていて、この分類や書いてある文言については、これからもう少し精査されていくのかなと感じています。というのは①、②、③のどこに入れるべきかが、財団が思っているところと違うところもあったので、その辺りはお手伝いいたしますので、後々適切なところに適切な文言で入れていただけるといいと思っています。

○委員長

すり合わせは、特にしているわけじゃないということですね。

○D委員

そうです。先週末に初めて見たので、この後必要かなと思っています。

○委員長

具体的にそういうところもあれば、必要になってきますね。

○E委員

全体的なことに関しては、今までの委員の皆様とほぼ同じですが、43ページの「せんがわピアノオーディション」というのは、今、延期か休止状態か。

○D委員

今、休止しています。休止してるとか、変えようとしているものが混ざっているの、そこも精査が必要かと思います。

○E委員

これを載せているのがどうなのかと気になったことと、このビジョンを基に、文化を発展させていこうと思うと、例えば19ページ⑧の「市内の文化的環境について」の満足度が、環境を満足してないと思っている方が21.8%いらっしゃるというのは結構衝撃を受けていて、この方々が何に満足してなくて、そこを深掘りしてこれからどういうふうにしたいか方針があるといいと思いました。アンケートとしては数字も整っていて、いろいろなことがわかりますが、何で満足していないのかがわからないので、そういうところもわかるといいと思いました。

○委員長

わかりません。それがこれからの課題に上がってきそうな感じがします。

○F委員

15ページの、「文化芸術イベントには興味がないので行かない」が半数以上というのが衝撃で、文化生涯学習課もいろいろなイベントを発信してくださっていると思いますが、それでも興味がないというのは何とかならないのかと感じています。私は学校関係者で、教育の力はこういうことに対して力があるかなと感じていますが、施策を見ていくと、教育のところは関連分野扱いみたいな感じで、もう少し教育のところも打ち出してもいいかなと感じました。

あとは、資源として調布市に美術館のようなものがなく、音楽と美術の力は大きいと思うから、そこは何とかならないかと感じているのと、調布といえばこれという、文化芸術の拠点があるとすごくいいなと思っていて、グリーンホールがこれから新しくなっていくので、そこは期待しています。せっかく駅の作りが変わっていて、階段を上がった瞬間に素敵な街並みだと思うので、拠点があると、記念館や博物館が点在していても繋がって生きていくと思います。

○委員長

教育との関係性をとというのは、やはり重要になってきて、うまい感じで繋がるといいなと思います。

○G委員

今回の骨子を読んで、既存の何かを生かしていこうという意見はまとまっているんですけど、新しく何かを生み出そうという視点が私には感じきれなくて、残念だと思っています。余白を残すような骨子はいけないのかもしれないですが、例えば若手アーティストを育成する場所を作るとか、郷土博物館が老朽化していますが、全然人が見に来ないのが本当にもったいないと思うと、できていないことを洗い出すという作業をしていくことが必要だと感じました。ヒアリングデータのまとめ方ですが、どこの団体がどういう観点からこれを言っているのかわからない。発言者が誰かわからないから、何のことを言っているのだろうというのが結構多くて、課題かどうかを把握しきれないので、資料を内々に見せていただくときにはわからないと、課題が理解しきれないと感じました。

○委員長

重要だと思いつつ、どう変えていきましょうか。

○H委員

今回これを拝見して一番ショックだったのは、認知度のところですが、18ページに調布市の四大事業と書かれているものがあるんですが、文化祭とシネマと国際音楽とよさこい。そのうちの半分はほとんど知られていないんだと思って、すごくショックでした。結局、自分たちよがりで行っていた感じに思えて、もう少し発信の仕方を変えなくてはいいんだと思いました。

それともう一つ、「調布ならではの」という言葉が何回も出てきますが、それがすごく抽象的でよくわからないと思います。

○副委員長

23ページの、将来像と施策のところですが、施策1の基本的な考えの冒頭に「地域の文化資源がまちづくりに生かされ、まちへの愛着が深まる中で」という前書きがあるが、こういう共生社会の充実ということを目指しているのだから、調布に何か一つのモノカルチャーな文化があって、それをみんなが享受しなさいというふうに捉えられてしまうと、むしろ共生社会に反してしまうので、調布の今あるものに違和感を持っている人たちもいて、その人たちのことも相互にきちんと理解しましょうということこそが大事だと思うので、調布の地域の資源を大事にしましょうということは次の施策のところを書いてある

ので、あえてここでは言わない方がいいと思います。調布が大好きという人ももちろんいるし、後から移住したけど馴染めないと思っている人もいて、お互いが文化芸術を通じて相互に理解し共生していくというところが重要なので、最初の前書きは外して、地域の文化資源の話は施策2だけで言った方が、施策の体系としてはいいのではないかと思います。

○委員長

そういうふうに読めてしまうと、この共生社会こそが大事だと言っているところが生きないということですね。

○副委員長

そういうことです。

○委員長

今までの中で、例えばC委員がおっしゃったようなところは大事な気がします。皆さんのおっしゃったことはすごく大事なんですが。例えば、この計画を実施していく行政が読んでいくなればこれでいいんだと思うんです。つまり、行政内部の人たちにとって絶対大事な計画であって、内部的にこれが文化芸術を推進していく上での重要な計画であるのはいいのですが。これができたら、概要版でわかりやすく親しみやすいタイプのものを、市民に向けて、漢字を少なくすることなども含めてやるのが手かなと思いました。計画をわざわざ読む人はそんなにいないので、重要な部分をわかりやすく親しみやすくするものを別に作ることをお考えいただいていいかと思いました。

皆さんがおっしゃっていたことや財団の問題とも関係するんですが、これまでやってきて良かったけど、コロナやいろいろなことでできないということもあるかもしれない、これまでの部分とこれからの部分を少し分けてもいいんじゃないかなと。施策がいっぱい並んでいるところで、こんなにたくさんやっているけどこれ以上何をやればいいんだろうという感じになってしまうと思うので、この辺は少し整理をした方がいいと感じました。

余白を残すのはいいと思いました。これまでこんなにやってきたけど、まだこういうことはできていないから、こういうことに挑戦しますというのがある方がいいと感じます。

○A委員

共生社会の充実というところが一つのキーポイントになってくるとは思いますが、施策1の33ページを見ていくと、cifa（国際交流センター）の取組がほとんどなんです。文化芸術の力を活用して共生社会の実現をしていく、広くやっていくということであれば、そのためにどういった活動や、何が必要なんだろうというところをもう少し噛み砕いて丁寧に繋げていくような施策や整理の必要があるんじゃないか。

○委員長

何か具体的な取組みみたいな形ではなく、今四角で入っているところがあって、その下に説明を書いていくようなイメージですか。

○A委員

自分の共生社会のイメージは、ベースとして今現在の繋がり希薄化があるところから始まり、文化芸術を通じた出会い、繋がり、孤立しないで助け合い共生社会を実現していきましょうというストーリー

一感のある展開といいますか、もう少しかみ砕いて丁寧な形にしていかないと、題目だけで走って本当にできるのかなとはいつも思っています。

○委員長

共生社会や多文化とか多様性の認識というような言葉で、当たり前に使われますが、意外とみんな違って考えているなということがあるので、そこに含まれるものをもう少し丁寧に説明してはどうかということかなと思うんですが、合ってますか。

○A委員

ちょっとイメージは違いますけど、それ以上は語れないので、違う委員さんに語ってもらった方がいいかもしれないです。

○B委員

興味がないという方が半分ぐらいいるアンケート調査の結果の中では、文化芸術に興味を持たないでスポーツの方に行ってしまう方もいたりするところもあり、多様性がそういうところに出ているんだろうと思いました。施策4のところにも関連するかはわかりませんが、文化や芸術が他分野とうまく繋がれば、興味を持つきっかけになるんじゃないかと思うので、他分野との事業の連携を、新たな取組として働きかけてもいいのかなと思いました。

アンケートにもありましたが、子どもたちは、美術館や音楽会に連れて行く親の影響が大きいと思うので、親へのアプローチがもう少しできるといいのかと思いました。

○委員長

親御さんの話というのは、この間、私も授業でしました。美術館とか演劇が好きで連れて行ってくださるような親御さんがいたらいいですが、そもそも文化や芸術は贅沢品だからうちとは関係ないと言う親御さんが実際にいらっしゃる。それだと関心のない人が増幅していくことになってしまうと思うので、親御さんの意識を変えていくことも意外と大事な視点なのかといつも思います。

○C委員

四大事業があまり認知されていないという中で、私もずっと調布に住んでいながら全然意識をしていなく、なぜなのかを考えたとき、名前がやっぱり硬い。さっき話した、この文章が硬いというのももちろんそうなんですけど、イベント自体の名前にわくわくさを全然感じなくて。「ミュージックフェス」と言われると行きたくなくなるけど「音楽祭」と言われると行きたくなくなるのをすごく感じたし、「映画のまち調布」とすごく言っていますけど、これも「シネマタウン調布」とかに言い換えたらどうかなと思ったときに、途端に興味が出るとか、ワード一個だけでも興味の刺さり方が全然違う。今、これだけやっているイベントも、よく見れば興味はありそうだけど、ポスターとイベント名だけで全然行きたくなくなるというのも結構あったので、そこはまず一つ改善点なのかと思いました。

調布でやってる、良かったなって思う点であるとする、「てつみち」の利用はすごいわくわくしてずっと見ていて、工事をしているときから調布市はこうなりますという施策のPDFが出ていて、何か新しいことやろうとなってる方が、見ていてわくわくするし、今後見守っていききたいと思うので、そこは実際に必要なかと思いました。みんなに興味を持ってもらえるようにしていく中では、楽しさをもう少し感じてもらえるようにすべきだと思いました。

○委員長

施策を具体的にどうやってやっていけばいいかというところだと思いますので、これを作った後に、さらにC委員にいろいろ意見をいただきながら実際にやっていくということが必要なのかなと思いました。

○D委員

他の市がどんなものを作っているかを見たのですが、いくつか、市はこういうふうにします、市民はこういうふうに参加してくださいと書いてあるものがありました。調布では、市民は、市や財団はこれを行っている、ということはわかると思うんですが、じゃあ自分たちはこういうビジョンの中で、どのように参加していったらいいかというヒントがないと、なかなか参加しづらいなという気もした。それを入れられるかどうかは、わかりませんが。

○委員長

具体的に連携しながらやるとは書いてあるけれども、市民の人たちとか他の組織の人たちが、これにどうやって関わってやるのかというのがちょっと見えづらいという感じですかね。そこまで計画で作れるかですよね。でも、非常に重要な意見だと思います。作った後にこれを実践していくということをしていかなければ効果が現れないわけですし、皆さんに関わっていただくためにはどうすればいいのか。先ほどのわかりやすい広報などがすごく重要になってくるなというのを、改めてとても考えさせられました。

○E委員

文化というのは、心を育てたり、感性を育てたり、それぞれの人生の中で、それに触れることによって時間価値を高めて、その人の人生を豊かにするものだったときに、C委員からも名前が硬いという話があったが、そうだと思いますし、絵的にも人の感性をくすぐるような冊子が作れたら、すごい素敵な市になるんじゃないかと思いました。せっかくこういうものを作っていただくので、物語性という言葉が先ほど出ましたが、これを読んだ人が、調布市の文化に対して未来や希望が感じられるような心に響く1冊になったら、どんなに文化として素敵なんだろうというのを感じたので、すごく難しいと思うし、行政としてはデータとして残す必要性がありこういう形式も必要だと思うんですけど、市民の目に付くということを考えると、そこに訴えかけるような1冊をぜひ作っていただけると、自分としては嬉しいなと感じました。

○委員長

作りましょう。一緒にみんなで。計画は計画で作って、絵本のようなものを作るとか。大人の絵本が最近すごく流行っているのだから、それを見てもらうだけでも感性が豊かになりそうな物を作るというのはありじゃないかと思います。そこまで予算があるかどうかは知りませんが、そのことによって考え方が市民に普及して、知ってもらえるのは大事な気がします。それは来年度の予算でもいいので、これから考えていただければいいのではないかと。

○F委員

最初にお話いただいたときから、文化芸術のビジョンなので、教育のビジョンなどとは違う魅力があるものがあるという話をしたことを思い出した。

これまでとこれからというところについて、説明に来ていただいたときに意地悪な質問をしたのですが、今やっていることは、いろいろなところが頑張ってもらっていて、これからのところに市としてどのくらいのウェイトをかけているのか。どうしても財源があるので、この委員会の中ではそんなにかけられ

ないけど、今やっているところを地道に広めていこうというスタンスなのか、文化芸術の薫りが広がる豊かなというレベルまで、お金もいっぱいあるから使ってもいいよという感じなのか、どっちですかと質問をしたんです。じゃないと、これからどこまでイメージしていいか、どこまで言っているのかわからないというところが正直なところです。

○委員長

言いたいことは言きましょう。

○F委員

なので、「豊かな芸術の薫り広がる」とは、すごい大きく出ましたね、相当頑張りましょうという話をしました。そのわりに美術館がなかったりしますが。そこは予算も絡んでくるので、あまり広げても言ったはいいいけどやれないというのも現実的ではないと。

教育の話で、保護者の意識の改革と言っていてとてもありがたいなと思った反面、家庭の経済格差が文化芸術に触れる機会に反映されてしまうので、そうすると公立の学校がたくさんあるから、小・中学校に行くところな文化的な体験ができるということをお金がかかって、学校独自で楽団を呼べないので、市としても教育も入れますということであれば、3の担い手の育成のところは教育が関わることかと思っています。

○委員長

学校の話がここに入れられるんだったら、入れた方がいいんじゃないかと思います。でも、他の市とか自治体でも、学校を入れてくれるなどといったところも結構あったりします。今、負担が増えている中で、校長によっては文化芸術や何かを一生懸命やるところとそうじゃないところがあり、考え方がまともでないからみたいな感じのことを言われるときもある。

○F委員

アウトリーチ型だと受け入れやすいです。やはりどこかに行くとなると、移動の時間や生活指導などが入ってきて、1日丸潰れということも起こるので、アウトリーチだとそうではないので、すごくありがたい。多分、それを嫌がる学校は、市内はないように感じます。

○委員長

やはり学校の連携のようにちゃんと入ってる方が、そのことによって促進されることがかなりあるかという気がしました。

美術館の話もそうですが、予算の話はちょっと別だとしても、いろいろな部局と連携をしていくということになると、まち作りとか社会基本整備みたいなことの一環として、文化・芸術の施設や拠点を整えるという話になってくると思いますから、そういう意味では私達が後ろ向きになるよりは、なるべく前向きなことをちゃんと出して置いて、それをやるためにどれだけいろいろな部局が連携してもらわないと困るのかということ、調布市にわかってもらうことも大事だと思いました。なので、ぜひやってほしいということを出した方がいいんじゃないかと私は思います。

○F委員

この間、グリーンホールを新国立美術館みたいにしてください、って言うてみました。拠点のようなものがあるといいなど。

○委員長

そういうのもどンドン言ったらいいと思います。

○副委員長

文化の格差みたいなのは、学校がやるのが一番いいと思っていて、親が連れていけない、お金がない、時間がない。なので、親以外のところでいかに子どもたちに提供して、「子どもの頃に見たり聞かされたりした」というだけでも違うと思うので、そこはぜひと思いました。

それから、既存のイベントがたくさんあるからそれをより一層広げていこう、深めていこうとしか感じないのですが、考え直すところもあると思います。これだけある中には、そろそろ限界に来ているかなとか、形を変えた方がいいんじゃないかといったものがあり、このままやっていくのではなくて、課題を洗い出していくということを、各団体や主催者に求めていくとともに、もう一つは民間との連携というところもあまりないなと思っていて、既存の団体との連携はあるけれど、例えば商店街や地域の人たちとはあまりなく、まちが元々持っているものを、もう少し表に出し、調布市も理解し連携していく。イベントをやるときにも、そういう方たちと協力し合ってやっていくということも、市民が参加できる入口となる気がするので、それも含まれるといいと思いました。

○委員長

それは本当にすごく大事だと思っていて、実は、団体のヒアリングのときに調布市と話したときに、そのことを私も言いました。これまでの関係の人たちは、これからも続けていくが、興味がないとか、参加できないとか、そういうふうになっていて文化活動をしている人たちがおそらくたくさんいる。そういう人たちが、どうすると調布で活動してくれるかなど、そういう視点が大事なんじゃないかと思っています。自分たちも調布の文化を担っていると思っているのではないかと思うんです。支援が欲しいとは思っていないけど、何らかの形でこれに関わりたいとは思ってくれると思います。だから、それがどういうことだったら関わってもらえるのかを、今まで関わってきていない人たちに聞いてほしいなと思います。

○副委員長

第4章、62ページからの推進体制のところですが、外部機関との連携の話に、財団や文化協会、進行管理の話だけが書かれています。やはり市役所自身がどういう体制を作るのかというのをちゃんと書いた方がいいと思います。理想的には、こういう財源を持ってきて、これだけの予算で、これだけの人員体制で、こういう組織を作って、こうやるっていうとこまで書けるといいですけど、なかなかそこもできないでしょうから、市役所としてどういう専門性を蓄積していくのか、例えば職員の人たちがどういう研修やネットワーク作りをするのかなどを書くだけでも、市役所の担当課はやる気だなんていうことが伝わるでしょうし、そういうことは誰が人事異動で来てもやらなければいけないということが刷り込まれると思います。お金のことは予算があるから書けないかもしれないが、例えば国の補助金を取ったり、事業をやるときに協賛を集めたりというファンドレイジングはできる。ファンドレイジングやれるような職員の能力を高めるための研修をするとか、それをやるための取組をするとか、そういうことは書けると思うので、いろいろな施策のメニューを掲げたけど、それが絵に描いた餅に終わらず、実施できるということを担保するような、市役所自身の推進体制を書き込んでほしいと思いました。

○H委員

これまでやってきたこと、伝統文化を継承するということもとても大事なことなので、埋もれていることを掘り起こすことも大事に行っていってもいいと思います。

今後のことですが、先ほどもあったように、拠点が必要です。調布として思い浮かべるものがないんですね、文化の拠点というものは。昔はグリーンホールでしたが、今はあまりそのイメージがないです。しっかりしたものは欲しいと思いました。それと、「誰もが」というのがとても大事で、お稽古はやはりお金がかかるので、誰もがお稽古できるような仕組み、市の方から補助してもらえたらいいと思いました。

○委員長

皆さん非常に貴重な意見ばかりです。拠点を作りたいですね。拠点のあり方や考え方も変わってきていると思うので、今の時代に合った拠点というものをもう1回捉え直して作っていく方向性を目指してもいいのではないかと思います。

次第3 連絡事項

- ・事務局より、次回委員会日時等を報告

○委員長

それでは第2回「(仮称)調布市文化芸術推進ビジョン」策定検討委員会を閉会いたします。本日はありがとうございました。

—了—